

<国際金融パネル>

国際決済・国際送金の現状と展望

座長：東京大学 柳川 範之

<パネル趣旨>

経済のグローバル化とともに、国際的な資金決済や国際送金の重要性が増してきている。この分野では、近年、いくつかの変化が生じてきており、本パネルでは、そうした変化の現状について情報を共有するとともに、今後の展望について考察することを目的とする。

まず、国際決済については、「外為決済リスク」への対応が問題となっている。このリスクは、リーマンショック時に大きな問題となったが、この時点で、売渡通貨と買入通貨を同時決済する「PVP 決済」の仕組みが導入されていたため、リーマン・ブラザーズの巨額の外為取引がすべて安全に決済され、危機の拡大が防止された。この PVP 決済を提供しているのが「CLS 銀行」であり、世界最大の決済システムとなっている。リーマンショック時の教訓から、通貨当局では、各国において CLS 銀行の利用義務付けに動いており、わが国も例外ではない。

また、国際決済や国際送金で大きな役割を果たしているのが「SWIFT」である。SWIFT は、金融取引に関するメッセージ通信を国際的なネットワークにより提供しており、世界の銀行間におけるコルレス銀行業務などを支えている。SWIFT では、従来の銀行間の国際送金が「遅くて、高い」との批判を受けるようになったことなどから、「SWIFT gpi」というコルレス銀行業務の改革を進めている。gpi では、①国際送金の即日着金、②手数料の透明性、③送金処理の追跡可能性などを確保することを目指しており、これが普及すれば国際送金の姿は大きく変わることが期待される。SWIFT gpi の稼働後の評価を行うと共に、リアルタイム化に動き始めた各国決済制度についても考察したい。

一方、「分散型台帳技術」(DLT) を使って、「早くて安く透明な国際送金」を目指しているのが、「リップル・ソリューション」である。DLT は、「ブロックチェーン」とも呼ばれており、金融業務を根本から変える潜在力があるものと期待されている。リップルには、すでにグローバルでは 100 行以上が採用の意向を示しており、国内でも「内外為替一元化コンソーシアム」というプロジェクトに 60 行以上が参加している。

本セッションでは、こうした国際決済や国際送金の分野における最近の動向について、情報を共有するとともに、今後の見通しについて考察することとする。